

教育の世紀社の総合的研究 (その2)

公立小学校での教育実践 — 『耕作者』の教師たち —

中内敏夫, 田嶋一, 小林十枝子, 鈴木里美

(お茶の水女子大学) (國学院大学)

(お茶の水女子大学大学院)

(お茶の水女子大学大学院)

本発表は、民間教育史料研究会の数年来の研究課題である「教育の世紀社の総合的研究」の一部である。従来、社の教育実践は実験校である児童の村小に限られ、その「自由教育」的側面が強調されてきたが、本研究会では社の関連活動すべてを視野に入れ、地方の公立小学校での実践にも注目する。

そこで本発表では、こうした公立小学校での実践の一つとして、後期児童の村小と『生活学校』を支えた戸塚廉、牧沢伊平らの静岡時代(上京前)の活動を取り上げる。とくに彼らが1930年に発行した同人誌『耕作者』を中心に、その前史・後史をも含めたいわば『耕作者史』から、彼らの「生活教育」の形成過程とその構造を明らかにしようとするものである。

1930年に掛川第一小学校の教師であった戸塚廉、牧沢伊平ら青年教員グループにより、発行されたこの『耕作者』に関しては、まだまとまった研究はなされていない。わづかに、民間教育史料研究会編『民間教育史研究事典』で若干の紹介はなされているが、ここでは、『綴方生活』第二次同人宣言』を支持する地方教員グループの内部事情を伝える史料としての位置を与えられているにすぎない。また戸塚自身によるドキュメント類を除けば、『耕作者』を戸塚・牧沢らの「生活教育」との関連でとり上げようとする視点は、未だ見られない。

このように従来、戸塚・牧沢らの静岡での実践は、その後の活動の陰に薄

れ、余り注目されてこなかったが、本発表では彼らの公立小学校での実践にその「生活教育」の特質を見出し、『耕作者』、戸塚の日記類、牧沢の実践記録、『生活学校』等を史料に、戸塚・牧沢各々における「生活教育」の意味を明らかにする。

従って本発表によ、て以下のことが導かれるであろう。

(1) そもそも『耕作者』は「師範タイプ」教師の克服と閉鎖的教員社会の打破をめざした、青年教師による自己教育・職場改善運動として出飛したものである。

(2) それと並行して彼らは「農村共同体」を基盤に、子ども・青年を農村の自立と解放の担い手たるべく育てる、「生活教育」をめざすようになる。

(3) しかしその場合、彼らの各々が「共同体」をどう認識・評価し、「農村の解放」をどうとらえるかによ、てその「生活教育」の内実は異なってくる。その典型が戸塚と牧沢であり、前者が既成の「共同体」を克服の対象と見、農村の啓蒙による「解放」をめざすのに対し、後者は「共同体」を農村自立の足がかりとしながらもブルジョワ的「近代化」による解放を否定する立場に立つ。これが戸塚においては「子ども図書館」に見られる農村啓蒙運動としての「生活教育」であり、牧沢においては「少年寮」に見られる無学校の「生活教育」として展開することになる。